
開講科目名：労働法研究（A）（2単位）
開設年次：1年 2年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：榊原 嘉明

《授業の概要》

【到達目標】

労働法は、労働者として自らの身を守る上でも、経営者として労務管理等を適切に遂行する上でも、とても重要となる法である。

本授業では、i)労働法の基本的なものの考え方を理解するとともに、ii)労働者・使用者の立場から、実際に雇用の中で問題に遭遇したときに、法的に考え、解決策を導き出すことのできる力を身につけることを目標とする。

【授業方法】

毎回、(1)グループ・ディスカッション（30分：課題共有）、(2)解説講義（50分：内容理解）、(3)質疑応答・まとめ（10分）の3つのセクションで実施する予定である。

なお、授業は、基本的に配布したプリントにしたがって進める。テキストは、主に予習課題の作成に使用し、その授業中における使用は適宜参照する程度にとどめる。

【授業計画】

1. 労働条件決定システムと法
2. 人事考課
3. 昇進・昇格、降格
4. 昇給・減給と年俸制
5. 配転
6. 出向・転籍
7. 秘密保持義務・競業禁止義務
8. 懲戒処分
9. 労働者に対する損害賠償請求
10. 解雇の手続き的規制と実体的規制
11. 普通解雇と整理解雇
12. 辞職と合意解約
13. 労働時間の概念とみなし制
14. 法定労働時間の柔軟化と適用除外
15. 総合問題

※授業内容は、必要に応じて、変更される可能性がある。

【評価方法】

「授業参加度」（授業中課題・予習課題の作成を含む）により評価し、期末の試験やレポート提出は行わない。

《テキスト》

水町勇一郎『労働法〔第7版〕』（有斐閣、2018年）

《参考書》

村中孝史＝荒木尚志編『労働判例百選〔第9版〕』（有斐閣、2016年）
日本ワークルール検定協会編『ワークルール検定問題集』（旬報社）